

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：33914

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24242027

研究課題名(和文)山から見たベトナム史

研究課題名(英文)Viethamese history seen from the mountain areas

研究代表者

松尾 信之(Matsuo, Nobuyuki)

名古屋商科大学・経営学部・教授

研究者番号：40308838

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、山地世界の歴史を明らかにすることによって、ベトナム史を再構築しようとした。具体的手順としては、北部では広西・雲南両地域に隣接する山地と盆地、北中部では東西に走る「ラオス・ルート」と、チュオンソン山脈に沿って南北に走るルートに沿った地域に焦点を当て、文献調査とフィールドワークとを平行して行うことで、交通ルートと地方権力、社会との相互関係に関するデータを収集した。

こうして蓄積された大量のデータを電子化し、代表者・分担者・協力者・研究員および現地側関係機関(ベトナム学研究院、関係の文化局、博物館)で共有した。またそれらによる新たな知見をもとにメンバーは個別発表と共同討論を行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to understand the history of the mountain area of Vietnam and reconstruct the vietnamese history. We focused the 4 areas: Guangxi border area, Yunnan border area, Lao border area and Truong Son mountain areas. We practiced document research and field work. We could collected the many informations about relations between traffec route, local power and local society.

We made all these informations to computer files and shared with our members and related organizations (in Vietnam, China and Lao). Each members practiced his study using these informations and discussed each other.

研究分野：ベトナム史

キーワード：ベトナム 山地 歴史

1. 研究開始当初の背景

日本のベトナム史学界は、日本が誇る文献研究や考古学と、東南アジア地域研究のフィールドワークの方法を組み合わせ、またベトナムの学界と緊密に協力することにより、前近代と近現代の両方にまたがって、世界のベトナム史学界をリードするさまざまな成果をあげてきた。特に、桜井由躬雄が提唱したバッコック村長期総合調査(1993年-)に代表されるデルタ農村史の調査は、他の追従を許さない密度と広がりをもった。また最近では、海域世界史や、タンロン(ハノイ)都城などの都市史研究も進んでいる(本課題の代表・分担者はこれらすべてについて共同で研究をおこなってきた)。

ところが、ベトナム国土の7割を占める山岳地帯とそこに住む少数民族の歴史については、その重要性を説く古田元夫「西方関与」(『ベトナム人共産主義者の民族政策史』1991年)、八尾隆生「山の民と平野の民の形成史」(岩波講座東南アジア史第3巻、2001年)などの問題提起と、伊藤正子、武内房司らの近現代史に関する個別研究がすでにあるとはいえ、ベトナム史の全体像に組み込んだ形で(しかも「一国史の単なる辺境」にしないようにラオス史、東南アジア史、中華世界南部の歴史等々への位置づけも考えて)、総合的な見取り図が描き出されているとはいえない。別言すれば、山岳地帯の研究は民族学・人類学に後れを取ったままである。ベトナムその他の学界でも状況は大差ない。

他方、現在の歴史学界を主導するグローバルヒストリーの議論においては、東南アジア史家であるアンソニー・リードの海域世界史(Anthony Reid, *Southeast Asia in the Age of Commerce 1450-1680*, 2 vols, 1988, 1993)、リーバーマンの国家統合の比較史(Victor Lieberman, *Strange Parallels*, 2 vols, 2003, 2009)が影響力をもつが、どちらもベトナム史が弱いし、山の世界はほとんど抜け落ちている。香辛料などを産する島嶼部だけでなく大陸部東南アジアにおいても、近代のアヘンを含めて山と森の世界の産物とその交通路、ヒトの動きがきわめて重要な役割を果たしており(特に中部では、島嶼部と同様、それが海の世界に直結している)、これを無視して描く経済史や政治史は一面的でしかありえない。他方地域研究の世界でインパクトを与えている社会学者ジェームズ・スコットの「国家のない生き方」(James Scott, *The Art of not being governed*, 2009)や、文化人類学の諸研究は逆に、山地民の主体性を超歴史的に強調しすぎている。また近年は、中国南部～大陸部東南アジア北部にまたがる「タイ族世界」が、人類学だけでなく歴史学でも注目されているのだが、ベトナム山地の研究の中でも、中国国境側と比べ、「タイ

族世界」の中心であるラオス国境側の研究は遅れている。

2. 研究の目的

・本課題は、ベトナム史について長年にわたり緊密な協力をおこなってきたメンバーが、これまでのデルタ農村史、海域世界史や都市史の調査研究経験を踏まえながら、これまで不十分だった山地の歴史(10～19世紀の北部・北中部ベトナムを対象とする)に取り組むものである。

本課題のメンバーは、各自の個人研究や、八尾隆生が代表する莫氏(16世紀に王朝を樹立し、ハノイを追われた17世紀には中国国境のカオバン省で政権を維持した)の歴史調査(2009-2011年度基盤研究(B))プロジェクトを通じて、こうした山岳地帯の重要性を強く認識していた。王朝時代から仏領期までの国家に関する各自の個人研究を完成させるためにも、また山地を含んだベトナム史のより総合的な像を共同で描き出すためにも、本課題のような山地に焦点を当てた研究が必要と考えるに至った。

また、本課題メンバーは、これまでベトナム語での発信を通じたベトナムの学界との成果共有には成果をあげてきたが、グローバルヒストリーに貢献しうる英語での発信は、ごく一部にとどまってきた。本計画の立案は、その点への問題意識が強まった結果でもある。より具体的に述べると、

・文献・考古資料の分析と実地調査を組み合わせ、(1)各時代の地方統治・地方行政、(2)交通ルートと地方社会の変動に関するケーススタディを重ね、それらのベトナム史および広域の歴史への位置づけを検討する。

・トータルなベトナム史理解や日越学術協力の深化の一方で、グローバルヒストリーへの発信にも努め、東洋史・東南アジア史研究の刷新に資することが最終的な目標であった。

3. 研究の方法

本課題メンバーが経験を重ねてきた文献ないし考古資料の分析と現地踏査・フィールドワークを組み合わせる方法により、これまで研究(主に平野部について)を進めてきた北部・北中部地域を主舞台として(一部はラオス・中国も含む)調査・研究を実施する。

具体的手順としては、北部では広西・雲南両地域に隣接する山地と盆地、北中部では東西に走る「ラオス・ルート」と、チュオンソン山脈に沿って南北に走るルート(近世の「上道」、ベトナム戦争中の「ホーチミン・ルート」として知られる)に沿った地域にそ

れぞれ焦点を当て、ルートと拠点を選定した。

次にそれらについて、毎年度、現地調査を行った。具体的には 12 年度がチュオンソン山脈ルート、13 年度はベトナム西北部から広西のルート、14 年度がベトナム北部から雲南のルート、そして 15 年度がベトナム北部・中部それぞれからの 2 本のラオスルートの調査であった。現地調査共同実施機は、主として IVIDES(ハノイ国家大学ベトナム学・開発科学研究院)であった。

事前に IVIDES と、本課題全般および本年度調査について連絡、打ち合わせのうえ、冬季ないし夏季に 3 週間、ベトナムに滞在する。まずハノイに入国し、4、5 日間、滞在。ハノム研究院、第一国家公文書センターなどにおいて、関係資料(文献史料、地形図)の収集。参加者の一部は、そのまま調査期間終了まで、ハノイに滞在し、資料収集を続ける。残りのメンバーと IVIDES の研究協力者は、車を借り上げ、各ルートを調査した。

そして中世(「大越」が中国から独立した 10 世紀前後から 14 世紀まで。クアンビン以南では占城=チャンパー時代)、近世(15 世紀~19 世紀前半)、そして仏領期の各時代における、(1)地方統治ないし地方行政のありかたの変遷、(2)交通ルートやヒト・モノ・カネの流れと地域社会と地方社会・地方勢力の変動の 2 点に関するケーススタディを実施した。

(省都での調査)従来、山の世界の歴史研究が少なかったことの大きな要因は、情報の少なさであった。しかし現在では、多くの省の文化局、博物館に、村レベルまで含む文化財調査の成果として、大量の報告書や資料(考古資料の現物・写真や碑文拓本などの文献史料)が所蔵されている。本課題では補助期間を通じて、省都での資料調査を行った。またその状況に応じて、現地調査対象村落リストも補充した。本課題は、こうした新情報の利用と、歴史・考古の研究の統合により、山の世界の情報難に挑んだ。

(村落での調査)資料収集が見込まれる村落に立ち寄り、家譜・碑文などをデジカメ撮影などにより複写すると共に、交通ルートやヒト・モノ・カネの流れの変化に関して、古老からのヒアリングも行った。

最後に(3)それらのベトナム史(および国境の向こう側に続く東南アジア大陸部、中華世界南部などの歴史)への位置づけを検討した海・平野と山、農村と都市などを総合したあるべきベトナム通史の構想を議論した。

4. 研究成果

現地調査により、フィールドノートや複写資料などが大量に蓄積された。複写資料は、大部分はデジカメによる画像ファイルであるが、それ以外のゼロックスコピーや印刷物も含めて電子化し、全ての電子化ファイルを、代表者・分担者・協力者・研究員および現地側関係機関(ベトナム学研究院、関係の文化局、博物館)で共有した。

それらのデータに基づき、本科研 Working Paper を発行した。また嶋尾が中心となって現地収集資料にもとづきベトナム・ラオス国境において山と平地の媒介的役割を果たした世襲的権力の系譜の再構成を行いその実態について新たな知見を得た。また、八尾は、15 世紀のムオン族小首長(官郎)の一人であった丁世寿の銅板囑書をその存在を知って以来、20 年ぶりに実見し、既発表論文の修正をベトナム語論文で行った。考古学的手法により物質文化の研究を担当する西村・西野班はトゥエンクアン省で、タイ族系の墓葬発掘資料(14-16 世紀)の墓碑、陶磁器などの研究・資料化を行ったほか、16 世紀の在地土豪の山城(ニャーバウ城)やタイ族集落に残る仏教草堂の現地研究を行い、さらにチュオンソン山脈を後背地とするフエ近郊における伝統集落の歴史地理的調査を実施した。しかし 13 年度途中、西村の死亡により、西村の遺筆となった関係論文を集め、編集・発行した(西村は研究分担者はずれた)。一方、蓮田は近世ベトナム人の周辺世界に対する認識、歴史認識を検討し、例えば 17 世紀中葉にキリスト教徒ベトナム人が著したベトナム通史の訳注を発表した。また岡田雅志(研究協力者)が中心となって現地収集資料にもとづきベトナム・中国国境において山と平地の媒介的役割を果たした世襲的権力の系譜の再構成を行い、その実態について新たな知見を得た。

第 3 回 AAWH(アジア世界史学会、15 年、シンガポール)においては、本課題参加者を中心にパネルを開催し(panel 4.4: The Emd of the Charter Era in Eastern Eurasia: Social and Economic Changes in Japan, Korea and Dai Viet during the 14th to 15th Centuries)、前近代ベトナムと周辺世界との交渉・関係について、より包括的に検討し・討論を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

蓮田 隆志、ベント・ティエン「アンナン国の歴史」簡紹 情報の流通と保存の観点から、環東アジア研究センター年報、査読有、8 巻、2013、1-30

八尾 隆生、「前近代ヴェトナム法試論

『国朝刑律』再論 』、『歴史評論』
2013、査読有、46-59
Momoki Shiro, “A Spatial Analysis of Thăng Long Capital During the Lý Period Through Re-Exploitation of Written Sources”, *TRaNS: Trans-Regional and -National Studies of Southeast Asia*, 2 (Jan. 2014), pp 61-78. 査読あり DOI: 10.1017/trn.2013.16
蓮田 隆志、ミエン集落磨崖碑と成立期のベトナム後期黎明、資料学研究、11、1-14、2014、査読有
蓮田 隆志、文理侯陳公補考、東アジア—歴史と文化、23、29-49、2014、査読無し
嶋尾 稔、「売亭文契」に関する覚書 其の二』、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』45、2014、259-281 査読無し
八尾 隆生、黎明聖宗の目指したものの、東洋史研究、査読有、74-1、2015
蓮田 隆志、朱印船貿易・日本町関連書籍所載地図ベトナム部分の表記について、資料額研究、査読有、12、2015、33-53
桃木 至朗、亞洲東部海域的「貿易時代」與「小農社會」：以越南北部實例為中心(紀婉淳責任校対)、『季風亞洲研究』、1卷1期(2015年10月) 2016.1、pp.1-31。(査読あり)
Yao Takao, 2013, “Luật Quang Thuận 光順 đã từng tồn tại?: Nguồn gốc của Quốc triều hình luật 『國朝刑律』 không phải là luật Hồng Đức 洪德”, *Việt Nam Học: Kỳ yếu Hội thảo Quốc tế lần thứ tư*, tập 1, pp. 665-684, Hà Nội: Nxb. Khoa học Xã hội.

[学会発表](計 21 件)

八尾 隆生、「黎明聖宗の目指した大越ヴェトナムの立ち位置」2013年度広島史学研究会大会東洋史部会報告、2013年10月27日 於広島大学大学院文学研究科
Momoki Shiro, Ban lịch sử (phía Nhật) đã chú ý đến những vấn đề gì của Thăng Long?, Hội thảo khoa học: Những thành tựu hợp tác Việt Nam – Nhật Bản từ Dự án Quỹ tín thác UNESCO/Nhật Bản “Bảo tồn Di sản Văn hóa Thăng Long – Hà Nội”, Hà Nội (Trung tâm Bảo tồn di sản Thăng Long – Hà Nội), Sept 11-12, 2013.
Momoki Shiro, “Nói lại” và “so sánh” lịch sử Nhật Bản với lịch sử Việt Nam, International Conference: “History, Culture and Cultural Diplomacy - Revitalizing Vietnam-Japan Relations in the New International Context”, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National

University, Hanoi, Sept 20, 2013.
蓮田 隆志、17世紀ベトナムにおける歴史知識と修史について、第89回東南アジア学会研究大会、2013年6月1日、鹿児島大学
蓮田 隆志、新発見の日本国王宛書翰にみる黎明期の日越交渉とアジア海域世界、木浦大 學校島嶼文化研究院 30周年・海域アジア史研究会 20周年記念共同学術会議「島と海から見た歴史」、2013年12月2日、国立海洋文化財研究所(韓国・モッポ市)
林 謙一郎、重新探討大理国与宋朝之間的关系、第四届中国土司制度与土司文化國際學術研討会、2014年8月21日、中国広西壮族自治区来賓市・忻城県(省委1号會議室)
西野 範子、日越関係史 日越友好40周年記念各学会を総括して、第10回ハノイ・ロンド(日本研究・ベトナム研究勉強会) 於:ベトナム国家大学、人文社会科学大学、2014年5月31日
西野 範子・青山亨・木村淳・野上武紀・Le Thi Lien、西村プロジェクト クアンガイ省チャウタン沈没船調査の初歩的報告、ベトナム考古学の新発見(研究会)、ベトナム社会科学アカデミー、2014年9月26日
桃木 至朗、亞洲東部海域的「貿易時代」與「小農社會」：以越南北部實例為中心、シンポジウム「大航海時代台湾与東亞」、2014年7月15日、台湾中央研究院
Momoki Shiro, “What Epigraphic Sources Tell about Social Change in Đại Việt during the 14th-15th Centuries”, paper for panel 4.4: The End of the Charter Era in Eastern Eurasia: Social and Economic Changes in Japan, Korea and Đại Việt during the 14th to 15th Centuries, 3rd AAWH Congress (May 30, 2015, at Nanyang Technological University, Singapore)
Momoki Shiro, “Revisiting the Fourteenth-Century Crisis of Đại Việt Against the Background of the Yuan-Ming Transition in Eastern Eurasia”, paper presented at Global History Workshop: “Globalization from East Asian Perspectives” (organized by the 9th Division of Institute for Academic Initiative, Osaka University, Osaka University Nakanoshima Center, March 15-17, 2016)
Hasuda Takshi. “The Opening Phase of Japan - Vietnam Diplomacy in the Maritime Asian World: Through Introducing a Newly-Discovered Letter from Vietnam to ‘King of Japan’ ” AAWH 3rd Congress, 30th May 2015, Singapore: Nanyang Technological

University
Hasuda Takashi. "Regional Concepts, Regional Images and World Views." Writing Global History from Southeast Asian Perspectives: In Honor of Professor Victor Lieberman's 70th Birthday. 16th Dec. 2015, Osaka University
Hasuda Takashi. "Merchant and Adoptive Son: A Feature of Japan - Vietnam Foreign Trade during the Early Seventeenth Century." International Seminar on Early Modern Vietnam - Japan Relationship: A Regional Perspective. 24th Dec. 2015, University of Social Science and Humanities, Vietnam National University, Hanoi
蓮田 隆志「日本における近世日越関係史研究の成果と課題」, 国際シンポジウム「近世期日越関係史」, 2016年3月19日、於 ベトナム国家大学ホーチミン市校。(国際学会、招待講演)
Hasuda Takashi. "Diplomacy without Embassy? Vietnam - Japan Relationship in the Seventeenth Century." AAS 2016 Annual Conference, 31th March 2016, Washington State Convention Center
OKADA Masashi, "Socio-economic Dynamics in the Mountainous Region of Northern Indochina Peninsula during the period between 1880s and 1910s" The Third Congress of the Asian Association of World Historians, 2015/5/30, Nanyang Technological University, Singapore
OKADA Masashi, "Hinterland of the Maritime/Inland Ports: Socio-economic Dynamics in the Mountainous Region of Northern Indochina Peninsula during the Period between 1880s and 1910s," The 8th Indo-Japanese Workshop, 206/1/8, Jawaharlal Nehru University, New Delhi
Nishino Noriko, Pham Le Huy, Le Thi Lien. Lung Khe citadel in Bac Ninh province in the Red River Delta, New understanding from historical and archaeological perspectives, "The 3rd Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH)" 於 Nanyang Technological University (NTU), Singapore, 2015年5月29日
Nishino Noriko, UEDA Shinya International Ceramics Trade and Social Change in the Red River Delta in the Early Modern Period: A Case Study of Bát Tràng and Kim Lan Village "The 3rd Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH)" 於 Nanyang Technological University (NTU),

Singapore, 2015年5月29日(英語)
21 西野範子, 青山亨, 木村淳, 野上建紀, Le Thi Lien, Nishimura Project: the Oldest Shipwreck Found in Vietnam- Testimony to the Maritime Ceramic Rout "The 3rd Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH)" 於 Nanyang Technological University (NTU), Singapore, 2015年5月29日(英語)

[図書](計 2 件)

大阪大学歴史教育研究会編(秋田茂・荒川正晴・栗原麻子・坂尻彰宏・桃木 至朗 著)『市民のための世界史』(2014年4月、311p)
大阪大学歴史教育研究会・公益財団法人史学会共編(桃木 至朗 責任編者) 史学会 125周年リレーシンポジウム 2014 1 教育が開く新しい歴史学、山川出版社、2015年11月、238p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松尾 信之 (MATSUO Nobuyuki)
名古屋商科大学・経営学部・教授
研究者番号: 40308838

(2) 研究分担者

蓮田 隆志 (HASUDA Takashi)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号: 20512247

桃木 至朗 (MOMOKI Shiro)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 40182183

八尾 隆生 (YAO Takao)
広島大学・文学研究科・教授
研究者番号: 50212270

西村 昌也 (NISHIMURA Masanari)
金沢大学・国際文化資源学研究中心・研究員
研究者番号: 60469236

西野 範子 (NISHINO Noriko)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員
研究者番号: 60602092

林 謙一郎 (HAYASHI Ken-ichiro)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号: 20294358

岡田雅志 (OKADA Masashi)
大阪大学・文学研究科・助教
研究者番号: 30638656

嶋尾稔 (SHIMAO Minoru)
慶応大学・言語文化研究所・教授
研究者番号： 90255589

(3)連携研究者
()

研究者番号：